

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立西中学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	1学期の授業から、自分の考えや読解した内容を他者と交流させ、改めて自らの考えを再構築する作業に進んで取り組んでいる様子が見られた。一方、特定の条件に基づいて取り組む課題では、条件が書かれている文章を読み取ることに課題がある。また、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から、東京都の平均と比較して言葉の特徴や使い方に課題があることが分かるため、語彙を増やしたり、学習した語句を活用したりする指導をする。	作文等の課題は、詳細な例を示すと作業に取り組みやすいため、各単元で一度以上行う言語活動の際に例を示すことで全員が8割程度記入できるようにする。 定期考査の思考・判断・表現の問題でBに到達する生徒が7割以上になるよう、読解や答え方について、引き続き指導していく。
数学	全国学力・学習調査の結果、基本事項の習得はほぼ出来ていると思われる。しかし、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見る趣旨の問題では、正答率が1割であったことから、出題内容の意図を捉えることに課題がある。また、分野が統合された内容や身近な生活に潜んでいる数学的思考を必要とする内容に関する問題では、正答率が2割程度だったため、豊かな発想力の育成に課題がある。さらに、数学的な表現を用いて説明することができる生徒は3割で、筋道を立てて考え、証明する力の定着にも課題がある。	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるようにするためには、文章読解力が必要不可欠である。日頃の授業から、記述内容を理解するために、表や図などの作成を自身でできるためのトレーニングが有効である。教科書の表や図を参考に解くのではなく、読んだり聞いたりした情報を図式化できる習慣を身につけさせたい。また、数学的な表現を用いて説明することができるようにするためには、筋道を立てて物事を考え、それを文章で表現する練習を積むことが大切である。また、定理や定義といった既習事項を知識として持ち合わせていることも重要と考える。
英語	既習の文法事項の定着には時間がかかるが、進路を見据え諦めずに取組もうとする生徒の様子が見られる。「書くこと」においては、既習事項を駆使して書こうとしてはいるが、基本的な単語や文型が定着しておらず、正確に書くことができない生徒が3割程度いる。パフォーマンステストの「話すこと」において、8割以上の生徒が何とか伝えようと発話している。ただし単語だけになったり文法的なミスが多い英文となってしまう。	全ての単元で文法を取り入れた演習を行い、ポイントの理解と定着を図る。小人数授業では特に音読や英作文の指導が細やかにでき、繰り返し取組ませることで学力の向上を目指す。定期考査の「書くこと」の問題では、思考・判断・表現と主体的の項目がBに到達する生徒を7割以上にすることを旨とする。「話すこと」のパフォーマンステストでは、知識・技能と主体的の項目がBに到達する生徒を8割以上にする。
社会	一学期定期考査の結果、知識を身に着ける学習には意欲的に取り組むことができるため、事実に知識の習得は進んでいると分析する。単元末レポート課題の結果、身に着けた知識を生かし、自分自身の生活などと関連させて考えることに課題があり、正解を探したり、表面的な思考になる。授業内の話し合い活動により他者との対話を通して、多面的・多角的に考えを築き上げることができる生徒が全体の2割程であるため、議論を通して理論をブラッシュアップする力を身に着ける必要があると分析する。	思考ツールを使用した資料の読み込みを実施する。7割の生徒が社会的思考力を身に着けることができるようにする。グラフの資料では数値の変化などから社会の動向を読み取ることができるように授業内で発問をする。写真や図の資料では、個人で読み取ったことを中心に、他者の視点を加えてマインドマップを完成させる活動を行う。